

大仏と来日客

19 世紀、主要なヨーロッパ諸国は自分たちの交易活動を東アジアに拡大させ、スペイン、ポルトガル、大英帝国、そしてオランダから日本へやってきました。外国人が大仏の近くにいるという歴史的に重要な写真が多く撮られました。

大仏と西洋との交流は17世紀初頭から19世紀中旬まで時の幕府によって施行された鎖国制度によって、中断されました。しかし、ふたたびの開国によって、また交流は復活しました。外国人住民のための特別な優先された場所として横浜は1859年に自由港になりました。外国人は指定された居住用地域から40キロまで自由に移動することができ、横浜からほど近い鎌倉は外国人住民に好まれる訪問場所となりました。特に大仏に多くの外国人が訪れたという事実が、当時の多くの写真や書かれた文面によって証明されています。